



表紙の写真

雑誌「月刊山梨」

戦後復興した郷土山梨に月刊「甲斐路」という雑誌が誕生した。昭和21年10月から同23年6月まで続いた。この雑誌が同年7月から「月刊山梨」と改題して再出発、昭和27年正月まで続いた。県下唯一の総合雑誌を標榜しており発行所は甲斐路社、代表野口二郎、編集は谷口梅吉に始まり野村太郎、小池繁樹、佐藤森三と引き継がれた。郷土史では野口二郎、大森義憲、赤尾重樹ら、文学では石原文雄、曾根崎保太郎、飯田蛇笏らが執筆をふるっている。中でも野口二郎の連載「甲斐拾遺」は異彩を放っており、多くの読者に感銘を与えた。後日、遺稿集「甲斐拾遺」として発行され名著の誉れ高い。掲出の昭和26年11月の新年号は表紙絵を画家・斎藤徳文緒が当時の花形産業「ヒカリ産」を描いている。オープンは同年正月、新東宝映画を上映、館名は懸賞募集によるという。電気館、中央館に次ぐ小野興業直営の娯楽の殿堂。表紙絵は他に近藤乾年、堀内孝恵、堀内一郎、加藤政信らが描いている。表紙のみカラー。定価は創刊時20円、廃刊時50円。(解説：斎藤金文庫 橋松光宏)

「MUH」vol.21 1999.10.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢達・矢田道生・横田雅幸・久保田充一

編集／株式会社ニューメディア甲府

三神弘・三井君男／石原由美子・高山ひとみ／

原田陽子／宮塚利雄・杉村聡・青木茂樹／

浅川毅・櫻克明・永田宏

印刷／株式会社サンニサ印刷

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託した Mate (仲間) Union (結束) Harmony (調和) の頭文字からとりました。幻のムー大陸のロマンを目指します。

ふぉーらむ

テーマ 常備薬 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美 2

対談

山梨21 野口英一氏 山梨日日新聞社社長 山梨放送社長
アドブレーション社社長 山梨文化会館代表取締役 4

デジタル時代の最前線

情報化社会大予測

どう変わる新聞・テレビそして山梨

ホスト 早野 潔

TOPICS

韓国経済の成長を支えた財閥の終焉 宮塚利雄 10

ウォッチング

甲府相川ケアセンター 小沢圭四氏 11

サークル訪問

ヴァン・ルージュ 13

セミナー

情熱こそが柔軟な発想の源泉だ 青木茂樹 14

れでいずせみな

クルマ社会に思うこと 石川よし子 15

インフォメーション

早野組・トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運 16

歴史

武田遺遺軒信綱 上野晴朗 18

美術

ボク的美術品観察日記14 山本育夫 20

BOOK

こんなところに山梨… BOOKコーナー 「政治的良心に従います」 22

お茶の間の民俗学(12)

—ふるさとの心と味(7)— 志摩阿木夫 23

海を見るハイキング

高川 三味線滝 上野 巖 24

甲府通運前史を訪ねる(14) 林陽一郎 25

ユーザー訪問

YSP富士吉田 小沢モーター販売 26

お家拝見

増田邦夫さん 27

エッセイ

ビルの化粧直し 内藤利信 28

ときのひと+FACE

トヨタホーム山梨 澤口文子さん 29

トレンド

最近のBAG事情 30

おしゃれ

イシイ補聴器 たべる 青楓亭 31

コラム

某月某日 杉村 聡 32



早野 潔

野口英一氏

デジタル時代の最前線 情報化社会大予測 どう変わる新聞・テレビそして山梨…

ゲスト

のぐち えいいち
野口 英一 氏

山梨日日新聞社社長
山梨放送社長
アドブレーション社社長
山梨文化会館代表取締役

ホスト

はやの きよし
早野 潔
早野組社長

21世紀の朝は変わるか 情報化社会のビッグバン

早野 朝、目が覚めますと、まず、新聞を広げ、テレビをつけます。情報の「今」を知ることから現代人は一日をはじめる、という生活習慣を身につけています。そして、21世紀は情報化社会であると予測されています。

新聞・放送業界では、いま、何が起きているのでしょうか。

野口 まさにビッグバンでして、新聞業界は多メディア時代、テレビは多チャンネル時代になっています。

具体的に申し上げますと、情報メディアでもっとも古いのが紙のメディアの新聞であり、山梨日日新聞の場合、創刊より今年で127年、20万6千部に達し、世帯普及率も70パーセントになりました。放送も45年周年を迎え、YBSテレビ・ラジオも大勢の方のご支持を頂いてきました。

ところが、新聞、ラジオ、テレビ以外の媒体が、このところ急速に登場してきました。ことにインターネットの普及には目を見張るものがあります。たとえば、自動車の世帯普及率が10パーセントを超えるのに、およそ50年かかりました。また、電話は70年かかりました。今では生活になくてはならない自動車、電話も、これだけの時間を必要としたのです。

携帯電話の普及も急速でしたが、10パーセントを超えるのに10年かかりました。こうしたデータがあるなかで、インターネットはといいますと、5年間で10パーセントを超えるという普及率です。これは日本のデータであり、アメリカはといいますと、日本の3倍のスピードで普及しているのだとい

います。

早野 なるほど、そうしますと、今後の普及もおのずから予測されますね。すでに小学校の授業にも取り入れられているほどですからね。

野口 インターネットというのはパソコンの世界でして、これが何を意味するかといいますと、紙の媒体である新聞でなくても新聞が読めてしまうということなのです。テレビやラジオがなくても、パソコンさえあれば、自由に必要な情報が手に入るわけです。

もう一つ顕著な例を挙げてみましょう。現在、山梨の世帯数はおよそ30万ですが、このうち新聞を購読していない世帯がなんと10～15パーセントを占めるようになっています。かつては5パーセントほどだったのですが。

早野 どの新聞を問わず、1紙も購読していないのですか。ショッキングなデータですね。メディアがあまりに増えてきたために、新聞に頼らなくてもよいというのでしょうか。としますと、朝、新聞を開くのと同じように、パソコンのスイッチを入れるという生活習慣が起これるのでしょうか。

テレビは300チャンネル 新聞の再販制度はどうなる

野口 まさに情報流通革命です。新聞、あるいは放送にせよ、取材活動というのは永遠に変わることはないのですが、どのメディアでどのように情報を得るかという方法が、多様になってきているわけです。

こうした事態は、テレビにもラジオにもいえます。すでにご存知のようにテレビの場合は衛星で電波が降りてまいりまして、山梨でもパラボラアンテナを付けますと300チャンネルほど

観られるのです。おのずと競争が生じますから、まさにビッグバンであり、生き残りをかけた戦いははじまっていきます。新聞はまた、再販制度が撤廃されることも懸念されます。

早野 再販制度というのは書籍と同じで、何処で買っても同一金額であるという仕組みですね。

野口 この制度が崩れますと、新聞も一般の商品と同様に、規制緩和のなかで、いよいよ価格競争が熾烈になっていきます。

早野 山梨日日新聞の社長としては7代目、山梨放送の社長としては5代目でいらっしゃいます。たいへんな変革期にお立ちになられているわけですね。

社長就任よりほぼ4年、どのような経営展望をおもちですか。

野口 山梨県は小さくて「スケールメリット」があると、羨ましがられる表情がよく評されることがあります。経営効率がよいというわけです。ところがどうでしょう、近隣のどの新聞社でも投資金額というのはほぼ同じです。ところが、県の大きさが違うことから、発行部数も、たとえば広告料も格差がでます。売り上げが違ってきます。

早野 山梨の経営者の、共通の課題かも知れませんね。

野口 むしろ「スケールデメリット」です。こうした状況をいかに効率化するかが、もっかの課題です。

効率化で最大の効果を 新聞127年のデータベース化

野口 社長として手がけたことのひとつは、新聞と放送の融合です。新聞の編集部門と放送の報道部門をひとつにして、効率的、かつ最大の効果を図

ろうと着手したことです。この組織改革が機能しますと、全国に先駆けた進んだ新聞社であり、放送局になるのではと自負しているところです。

早野 新聞は紙、放送は電波と、媒体の違いはありますが、基本の活動は共通していますよね。

野口 もう一つ、新聞の歴史を財産にしようと構想しています。127年分の資料をデータベース化し、いつでも検索できるシステムづくりを進めています。放送局にも45年分の音声と映像が残っているわけですから、これも併せて、デジタル対応できるよう編集を進めています。メディア企画室も新設しました。

早野 二次利用が可能ですね。これも新聞と放送の融合策ですね。こうしたデータベースは文化遺産であり、期待と要望は拡大していくと思います。

もとよりインターネットも早くから手

がけられましたよね。ホームページの充実も、もう、どなたも評価しているところです。

■ テレビのデジタル化は2006年 ふるさとレポーターで地域性を

早野 未来型放送、つまりデジタル化の目標年度はいつでしょう。投資規模は莫大なものになるのでしょうか。

野口 放送というのは公共の電波を郵政省から免許を頂き、周波数をお預かりしているという性格のもので、免許事業です。現在はアナログの電波を出しているのですが、国の方針で、これを2006年までにデジタル波にすることになっています。このデジタル化に投資する金額は30億から40億円。当社の年間売り上げは61億円ですから、その規模はご理解いただけると思います。

早野 先程の「スケールデメリット」の

背景もさらに見えてきますね。

こうした情報化社会の変革によって、山梨県民の生活はどう変わのでしょうか。

野口 多様化、多メディア化により、自分の求める情報を自分の必要なだけ、かつ即時に得ることが可能になるでしょうね。

たとえば新聞を開くことも、テレビをつけることもなく、携帯電話で情報が得られるようになるでしょう。情報の格差がなくなりますから、何処にいても情報を得られますし、また、限られた専門的な情報だけを手にすることもできるでしょう。

早野 情報の有料化も出てくるのでしょうか。

野口 いまある媒体は今後も現在のままで継続していきますが、これから出てくる媒体については有料化もあるでしょうね。

早野 すると情報にレベルが生じるということにもなりますね。情報をもっている、いないで、暮らしが変わりますね。

野口 山梨県民の望んでいる情報とは何か、これを模索していくのが、技術革新を超えた情報化社会の取り組みではないでしょうか。

この4月から「ふるさとレポーター」というネットワークを設けましたのも、山梨県民に密着した情報を提供していくための試みです。山梨在住の数百人にのぼる方々にお願いをして、情報を頂きつつ、ご期待、ご要望をうかがっています。

早野 新聞の紙面も変わりましたね。従来、経済面は1頁だけでしたが、2頁になりました。「かいじネットワーク」の頁も充実してきました。山梨の暮らしが実感をもって報道されています。

支社、支局の記者の健闘ぶりが伝わってくるようです。

■ 木活字、鉛活字の時代から 伝統は「不偏不党」の精神

早野 歴代の社長はいずれも尊敬され、影響力があり、また、独自の個性をおもちでしたよね。山梨日日新聞の前身である「**峡中新聞**」が創刊されたのは明治5年。どういう時代かといいますと、荒川から水を引き甲府上水が着工されたり、小学校の設立がはじまったりと、進歩への足音が活版に聞こえてくる時代でした。

野口 初代は言論人であり、筆の立つ人だったと聞いています。新聞も木の活字から鉛の活字へと変わっていききました。

早野 立派な歴代の社長の事業を継承するというのは、いかがですか。注目もされますし、期待も集まりますね。

子供の頃、ご家庭での英才教育といったものはあったのですか。お父様の教えはいかがでしたか。

野口 家庭人としての父は身近に記憶していますが、特別に経営哲学を教わったということはありません。それに父を亡くした時は高校生でした。むしろ最近になって周囲の方から父のことを聞く機会があり、あらためて父と対面しているような気がしています。

何よりも貫いていかなければならないのは、不偏不党の精神だと思います。これはまた、変わることのない報道の使命でもあります。

早野 歴史をご存知のお母様は、叱咤激励なさるのでしょうか。

野口 もう、元気で有難いほどです。歴代の社長のエピソードを交えつつ比較し、「それにつけても」と結ぶの



が、いつもの論法です。母にとってみれば、いつも子供であり、いつまでも子供のようです。

早野 しかし、21世紀とともに進化していく山梨を担うには、またとない時代感覚、そして若さだと、私もまた期待を寄せる一人です。さらには地方の時代、また、地方分権に移行しますと、山梨のポジションも変わっていきますよね。

野口 山梨にとっては大きなチャンスだと受け止めています。東京とも隣接しています。道路をはじめ交通網もネットワーク化され、地域格差はなくなり、新しい関係が生まれていくでしょう。情報化という意味でとらえるなら、首都も地方ありません。情報を発信したところが中心となります。やはり格差がなくなっていくと思います。

どの企業も、このチャンスを活かすための整備をはじめるべきでしょうね。山梨は自然があります。世界一の富士山もあります。この自然環境はど

うしても将来にわたって守り続けていかなければなりません。この自然環境、住環境に恵まれての地方分権です。可能性を見出したいですね。

■ 社員と2千坪の農園開拓 発想豊かな新チャンネル

早野 ご多忙ですから、ゆっくりくつろげる時間はひとしおでしょうね。また、健康管理もなさらないと。ご趣味は何でしょう。

野口 履歴書には趣味を記入する欄がありますが、これまではスキューバダイビングとスキーと書いてきたものです。ところが社長となりましてからはもう、レジャーどころではなくなってしまいました。

水泳は得意です。そうですね、身体を鍛えておけというのは、思えばこれらは、親のしつけといえはしつけだったかも知れません。子供の頃、身体が弱かったものですから、温泉プールに





通われました。スイミングスクールのはしりだったのでしょか。冬場は、プールから出ると震えがきます。よく泣きましたっけ。しかし、お陰で体質改善ができたのでしょね。水泳は高校まで続け、競技大会にも参加するほどになりました。

早野 健康は事業家の条件ですからね。

野口 健康をかねてのもっかの趣味といえば、農業です。

早野 農業、ですか。畑を耕すのですか。

野口 はい。社有地を農場にしましてね、タマネギ、ジャガイモ、それから白菜などを栽培しています。およそ2千坪あるんです。

早野 驚きましたね。それは大農場じゃあないですか。立派な農場経営者ですね。

野口 社員の有志が集まりましてね、いつもとは違う出で立ちで、帽子をかぶったり、手拭いを首に巻いたり、み

んなで汗を流します。農業はものづくりの原点だと実感しますね。土を耕し、肥料をやり、土づくりからはじめないといけません。いつも観察していなければいけませんし、消毒もしなければなりません。白菜など、手をかけないと、もう、散弾銃で打たれたように虫に食われてしまいます。

農作業は苦勞がありますが、収穫の喜びというのがあります。社員が揃って同じ思いになれる、喜びにひたれます。

早野 人間関係の原点でもあるわけですね。しかし、そんな大量の収穫物をどうなさいます。

野口 社員食堂に提供しています。

早野 それはまた、柔らかな発想ですね。聞いたこともありません。

野口 さらに、この新鮮で、社員みんなで収穫した野菜をですね、贈答品にしているんです。たとえば東京の関連会社や、お世話になっている方々に、土付きのまま差し上げています。

早野 それは何よりも喜ばれるでしょうし、話題になりますね。そうした発想はどなたの影響ですか。料理もなさるのですか。

野口 料理も好きでして、スパゲティは粉から作ります。つい先頃、我が家の厨房を業務用に直しましてからは、火加減もちょうど良く、本格的な料理が作れるようになりました。

こうした料理への嗜好、また、懲り性のところは父譲りでしょうか。父は食べ物にはうるさい人でして、母をたいそう悩ましていたのをよく見ていました。厨房にもよく立っていましたし、帝国ホテルのシェフさんを社員食堂に招いたりしていましたから。

早野 いわゆる机上の経営哲学とは別に、教えられたもの、譲られたものはたくさんおありではありませんか。新しい時代には、やはり新しい発想が求められますね。まさに、デジタル時代の期待したいチャンネルです。

[構成：三神 弘]

21世紀は本格的なデジタル時代

郷土・山梨から変わる・変える。

総合情報産業 山日YBSグループ

OPEN
THE NEXT
DOOR!

■山梨日日新聞社

明治5年7月の創刊で日本最古の地方紙です。最先端技術を駆使した新聞製作システム「サンネット」、情報の収集・発信基地「報道センター」は新聞界でも注目のマト。また、新聞印刷センターは最新の技術を結集。特に自慢の高速オフセット輪転機は最大16ページまでのカラー紙面を印刷できます。全県世帯普及率70%は全国のトップクラスです。

■山梨放送

「県民の目です」YBSのキャッチフレーズで、地域に密着し安定した高視聴率の報道ニュース、スポーツ中継や特別番組で親しまれています。多彩な事業展開、マーケティング活動にも特色があります。

■アドブレン社

新聞、テレビ、ラジオ広告をはじめイベント企画・演出、各種デザイン、CM製作も手掛け、地域エージェンシーとして総合機能を発揮しています。

■サンニチ印刷

最先端の設備、高い印刷技術水準は業界でも注目され、ユーザーから高い信頼を得ています。

■ワイビーエストラベル

ひと味ちがうユニークな企画で、心に響く感動の旅づくりを演出しています。(運輸大臣登録第250号)

■ワイビーエスリス

「幸せづくりのお手伝い」をキャッチフレーズに、学習教材販売、ガソリン保険、ゴルフ会員権など幅広く事業展開しています。

■山梨テレ通信

無線呼び出し(ポケットベル)サービス事業を目的に昭和63年3月設立。ニューメディア情報産業の先端を行く企業として、将来の発展が期待されます。

■山日リース

産業機械・情報機械のリース、不動産の賃貸借など。

■タウン企画

甲府市全域とその近郊の一般家庭を対象にしたタウン紙「かわせみ」を毎週土曜日に発行。印刷物の製作請け負い、代理店業務の展開など経営の多角化も目指しています。

■山梨文化学園

100講座、15,000人の講座生を擁する総合カルチャーセンター。生涯学習を目指す高度な講座内容に定評があります。

■山梨文化会館

それぞれ独立した法人である山日YBSグループ各社の総合管理とビル管理を引き受けています。総合情報産業グループのまとめ役です。

■山梨ニューメディアセンター

ソフトウェア開発、情報処理など、高度な技術で多様なニーズに対応しています。

山日YBSグループの社会事業

- 山梨日日新聞厚生文化事業団
- 24時間テレビ「愛は地球を救う」
- 富士山をきれいにする会
- 山梨ライトハウス
- 白い杖愛護作文
- 山日YBS農業賞
- 県民の賢明官表彰
- やまなみ文化基金

歴史を重ねる山日YBS主催事業

- 山日YBS読書大会
- 野口杯県下卓球大会
- 山日YBS杯県少年軟式野球大会
- 県下市町村対抗軟式野球大会
- 山梨県下一周駅伝競走
- 県下中学校選抜野球大会
- 県下地域対抗囲碁大会、王将位、竜王位将棋大会

■財閥主体の経済発展に曲がり角

韓国の統計庁は7月中平均工場稼働率が、97年4月以来27ヶ月ぶりに最高を記録し、生産もIMF(国際通貨基金)管理下以前の水準を大幅に上回ったと発表した。しかし、消費と投資は相変わらず低迷を続けており、さらには深刻な資金繰りに陥っていた、韓国第二位の財閥大宇グループが8月16日に、債権金融団六行と大幅なリストラ策で合意し、事実上のグループ解体がはじまった。大宇グループは現代、三星、LG(ラッキー金星)とともに、韓国の4大財閥の一つであり、特に大宇グループの創立者である金宇中会長は、現代グループの鄭周永名誉会長や三星グループの故・李会長らとともに、韓国の高度経済成長期を支えてきた代表的な経営者であり、立志伝中の人物として知られていた。それだけに、大宇グループの解体は韓国の経済界ばかりでなく、国民にも青天の霹靂であった。大宇グループは今後、現在の25社・総従業員28万人の大財閥から、大宇自動車を中心とする6社のグループに整理・縮小されることになった。大宇グループの解体は、歴代の政権と癒着して成長してきた韓国の財閥に対して、経営の透明化を求めてきた金大中大統領の財閥改革に対する強い姿勢のあらわれでもあった。

■大宇債権の損失分を血税で充当か

大宇グループの解体は、大宇の構造整理が遅れ、資金繰りの悪化を招いたことから、韓国の金融市場も不安感が漲っており、金融市場の不安を解消するための案として、証券・投資信託業

宮塚利雄

山梨学院大学
経営情報学専攻教授

界は公的資金の投入を要求している。金融業界ではこれまで、非公式的にさまざまなチャンネルを通じ、大宇の債権だけを編入するバッドファンド(bad fund)の設立など、公的資金投入の案を政府に建議してきており、いずれ、これを公の場で論議する動きを見せている。一方、このような金融業界の動きに対して、金融監督委員会と専門家たちは「投資信託会社などの資産運営の不実による損失を、国民の税金で埋め合わせようとする発想は、典型的なモラルハザード(道徳的危険)に相当する」として否定

「韓国経済の成長を支えた財閥の終焉」 …公的資金の投入には、 責任の所在と追求が必至…

的である。政府としては大宇グループなどの構造調整過程で、銀行などが大きな被害を受ける場合には、財務の健全性を維持するためにも公的資金の投入はあり得るとしているが、投資信託会社などの大宇の債権運営による損失を補填するために公的資金(血税)を投入することはありえないし、「大宇の債権運用による損失は、投資家が一定の部分を分担し、残りは証券・投資信託会社が責任を負わなければならない」としている。そして、万が一にもやむを得ず投資信託会社などに公的資金が投入されることがあっても、「必ず責任の追求はしなければならない」と、公的資金の投入に厳しい見解をとっている。日本でもこれまで金融業界の不幸事に、公的資金が安易に投入されてきた。国民の関心は深かったが、徹底した責任の追求にはほど遠かった。韓国政府が大宇の債権運営で損失を被った証券・投資信託会社に、公的資金を投入するのか注目される。



大宇債権の損失分を血税でまかなうのか
〔朝鮮日報〕99年8月23日号

来年4月からいよいよ介護保険制度が始まる。高齢化や少子化の進展に女性の社会進出などが加わり、家庭内の介護力が低下してきている今、介護を社会全体で支えようという目的で誕生したこの制度。要介護認定者は施設サービスを受けられることになるが、今回は入所する人も家族も安心できる、素晴らしい施設をご紹介します。

県内でも数少ない 社会福祉法人の施設

ひとくちに老人保健福祉施設と言っても、制度的には老人保健施設と老人福祉施設の2種類に分かれる。この甲府相川ケアセンターは老人保健施設であって、しかも県内では数少ない社会福祉法人による運営だ。「医療法人の運営するそれより、職員数や設備といった基準がかなり厳しいんですよ」と事務長。医師は常駐で1人いるうえ、看護婦の割合も高く、また、医療法人と違って税負担がからないため、生活保護世帯や非課税世帯に当たる方は、無償で入所できるのだという。「社会福祉法人の利点を活かし、入所者に対して手厚い看護・介護を行い

たいというのが私どものいちばんの願いなんです」と訴える。

その思いは、新しく完成した建物の隅々に影として表れているようだ。

これからは、入所者が施設を選ぶ時代

当初の建設計画に何度も手を加えて出来上がった建物は、「日照・通風・眺望」の3点を特に重視したという。眺めのいい一般の風呂場はもちろん、車椅子で入浴できるリクライニング式機械浴や痲ほう棟専用の浴室も設置。部屋は明るい日差しが差し込み、富士山に見える南向きに配置



●甲府相川ケアセンターデータ●
平成11年9月オープン。社会福祉法人「山梨聖の会」を母体とする老人保健施設。職員は45名。入所は96人。富士山と甲府の街を望む高台に建ち、敷地面積は1万㎡。その一角には恵まれた自然を満喫できる遊歩道もある。『在宅介護支援センター』も併設。
〒400-0003 山梨県甲府市東原町359
☎055(252)1600

甲府相川ケアセンター



事務長
小沢圭四 氏
おざわ けいし



し、デイルームには床暖房やオゾン発生装置も付けた。廊下も2.5mとじつにゆったりとしたスペースだ。外へ出れば広々とした敷地内に遊歩道もあり、森林浴しながら散歩ができるようになっている。充実しているのは施設だけではない。例えば、食事は毎日毎食、自分の好きなメニューを選択できるように工夫されている。好きなものを選んで栄養士がきちんとカロリー計算しているので、偏食の心配はないそうだ。「私どもは入所者とご家族に心から喜んでいただきたいんです。そのために職員が一丸となって尽力してゆきます」と事務長。

「連絡をいただければ、相談員が直接出向いてご質問やご相談にのります。まずは気軽にショートステイやデイケアを利用してみてほしいですね」と話す。施設といい、サービスといい、全国的にも最先端をゆく甲府相川ケアセンター。「新しい介護保険制度は自分の意志で施設が選べることを狙いとした制度。これを機にぜひご自分の目で確かめ、納得してから入所していただきたいと思います」。

入所者のことを第一に考える姿勢に、21世紀にふさわしい老人保健施設の姿を見た気がした。

GOODドライビング



この手で思いやりをしっかり握る

運転テクニックだけではない、様々なまわりの環境に対する思いやりの運転。そんな気持ちでハンドルを握るあなたへ「GOODドライバー」のライセンスを捧げます。さあ、シートベルトをしっかり締めて街へ、フィールドへ「GOODドライビング」!

山梨中央自動車教習所 甲府市横根443-2
施工/株式会社早野組



株式会社 早野組

ISO9001
認証取得

本社 ■〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10
TEL 055-235-1111 (代) FAX 055-235-1109
●リニューアル部 TEL055-232-0200
東京支店 ■〒193-0835 東京都八王子市千代田2-5-24
TEL 0426-67-8800 FAX 0426-67-9497

中部支店 ■長野県飯田市高平2821-1 TEL(0265)22-3969 FAX 52-2171
新潟営業所 ■東京都新宿区西新宿4-41-407 TEL(03)3376-2897 FAX 3375-7124
静岡営業所 ■静岡県静岡市南区5-1-7 TEL(054)284-3938 FAX 284-3919
岐阜営業所 ■岐阜県土岐市南郷の木町1丁目32 TEL(0572)55-2834 FAX 55-0817
長野営業所 ■長野県駒ヶ根市赤穂3469-1 TEL(0265)83-0360 FAX 81-5468

サークル訪問

汗で育つ 感性が光る
街にめぐる文化探訪

工夫を凝らして山梨での生活を楽しむ仲間たち

「ヴァン・ルージュ」



気心も知れ、話もなごやかに

同じ立場だから、 気持ちも通じやすい

昨年、甲府市主催の「転入奥様ふれあい講座」で顔を合わせた女性たちが、講座終了後に結成されたサークルだ。以来、社会教育センターを拠点に活動が続いている。サークル名は当時、赤ワインブームだったのと、山梨はワインの産地でもあることから「ヴァン・ルージュ」(仏語で「赤ワイン」の意)と名付けたそう。その名の通り、とてもお洒落で垢抜けた女性たちだ。「夫の転勤で山梨に移り住んだ私たちにあって、この集いはとてもうれしい交流の場になっています」と代表の森下さん。内容は、水道やゴミといった生

活に必要な知識の習得を始め、ワイナリー見学や蕎麦打ち体験など屋外での催し、Xマスリースや折り紙など季節に合わせた小物作り、またアロマテラピーやフラワーアレンジメント、パッチワーク、ビーズのアクセサリーなど趣味的なものまで盛りだくさん。「メンバーの中に得意な技をもつ人がいるので、それぞれ教え合ったりすることもある」そうだ。

山梨には自然や温泉、 遊び場がたくさん

「山梨は観光スポットが多くて、年間計画は年初に決めるんですが、回数を重ねるごとにあれもこれもと新しい企画やアイデアが湧き出てくるんです

よ」とメンバーが話す。月2回の定例会以外でもお互いに情報交換し合い、積極的に未知の分野を開拓している彼女たち。おかげで地元の人より詳しいこともあるとか。人生を楽しくするのは、自分次第。同じ時間を過ごすなら、たっぷり満喫できる方がはるかにいい。工夫を凝らして内面を満たす彼女たちの瞳は、キラキラ輝いている。そんな彼女たちにCheers! (古い仏語で「元気のいい顔」)と乾杯したい。

◆ヴァン・ルージュ◆

1998年9月発足。山梨に転入してきた奥様で構成される。現在、会員は31名。下は24歳から上はお婆さんのいる方まで。月2回、料理や手芸、講話や施設見学など様々なイベントを開催して、山梨への理解や親睦を深めている。
代表 森下 悦子
連絡先 〒400-0033 甲府市海町20-25
☎ 055(222)0872



山梨学院大学
商学部専任講師

青木 茂樹



●知能社会に向けて必要な組織とは

20世紀の初頭は、肉体労働の生産性が中心的な問題であった。肉体労働の生産性のためには、組織は効率的に編成されることが重要であり、一人ひとりの個性は排除されなければならない。そこで、効率的な人的資源管理として、マニュアル型管理が必要とされてきたのである。

しかし、21世紀の知能社会では、知識労働の生産性が中心的な問題となる。知識やサービスはモノ以上に陳腐化が激しく、模倣されやすいものであるから、つねに需要を創造していかなければならない。資産、土地、担保力、歴史などが20世紀のリーダー企業の基準であったが、今やこれらこそが不良債権化し、多くの企業において身動きがとれなくなっている。21世紀においては、創造の連続からブランド企業が生まれてくる。今日のリーダー企業であるマイクロソフト、GE、インテルなどはその典型であろう。創造的企業であり続けるためには、一人ひとりの個性を活かしながら、これをまとめあげていく力がトップには必要とされる。そこで現場にエンパワーメント(権限委譲しながら、やる気を引き起こす)していくことが重要な課題となる。一人ひとりの人材の強みとその知識をいかに生産的たらしめるかが組織の課題となるのだ。最近の話題のナレッジ・マネジメントもこの延長線上にあるといつてよい。

●考え抜くから仕事は面白い

創造的企業である以前に、日本において創造的人材は十分に輩出されているのだろうか。職業柄、多くの学生と

接触しているが、昨今の学生をみると、受験、デート、ファッション、アルバイト、就職試験・・・と何から何までマニュアルづけとなっている。そして、マニュアルにあっているかどうか最終的な判断の拠り所となってしまうている。

確かに、ある水準までレベルアップするには、マニュアルは便利であるが、あくまでもマニュアルが目的達成のための手段として考えなければならない。

しかし、マニュアルを目的とはき違えている人があまりにも多い。「受験勉強はしているのですが、行きたい学部がわかりません」とか「本を読んで面接のポイントはわかったのですが、進むべき業種が書いてありません」と、笑えない話が出てくるのである。

これは学生に限ったことではない。企業の営業マンの応対を見てもマニュアル通り、紋切り型の話しかできない人が増えている。顧客のニーズはそれぞれ千差万別なのだから、マニュアルを超えて、個々のニーズにあった提案をしなければならないはずだ。

松下幸之助氏も「販売のやり方がわからん、けど、なんとしても商売を成功させたい、そういう懸命の思い、情熱というものがあれば、そこに工夫も生まれて、成功の道が発見される」と語っていた。

どんなにゴルフの本を読んでも、それだけでは90を切るゴルファーにはなれない。天候の変化、新しい道具、自分の体型や資質などを考え、何よりも常に勝ちたいという意欲が根底になくしてはそれ以上に成長できない。このことはあらゆる職業に通じるものであろう。なにも難しいことを言っているわけではない。自らの仕事を楽しむことから柔軟な発想は生まれるものだ。

フリーライター

石川よし子



れでいす
せみな

クルマ社会に思いつく

冬の早朝のこと、突然、表でブーン、ブーン、ブルルーンと、大きな重い車のエンジン音が聞こえてくる。わたしにはすっかりなじみのある音なので、「そうか、今日はカーツーリングの日なのだ」とさっそく飛び起き支度をする。いつもは寝坊の主人が、日曜日の早朝だということにもう起きていた。それどころか、もう何日も前から磨いた愛車のボディをさらに念入りに磨き、エンジン音を点検している。いつもながら、車に向かう主人の顔は厳しい修行僧のようだ。

やがて、あちらこちらから重いエンジン音をたて、同じ形の車が続々と集まってくる。その数は15、6台。色はさまざまだが、みな宝石のようにピカピカに磨き上げられている。青空を車体に映して光り輝く姿は、壮観としかいいようがない。

わたしの主人は、30年も前の古い車を愛する会の会長を務めている。マニュアル車だし、パワステもついていない。もう製造されていないから、部品の交換も難しい。もっと性能のいい新車が続々と生まれているのに、どこがいいのか、最初はさっぱりわからなかった。

しかし、この車にこだわる主人や仲間たちの姿はハンパではない。カーツーリングは晴れた日曜日と決め、車の汚れる雨の日には乗り出さない。車の修理や点検を始めたら、どんな深夜もいとわない。指先のかじかむ厳寒のさなかでも、指に息を吹きかけ鼻水をすすりながら修理を続ける。古いメンバーは、たいてい部品を取るための車を別に用意している。時間と経費を考えれば新車が何台も買えるだろうに、仲間たちはこの車にこだわっている。妻や子どもたちより大事なようで、時には「そんなに大事なら床の間に飾ったら」と言うが、「うん、そうしよう」と真顔で言うから皮肉にならない。とうとう主人は、専用のガレージをつくってしまった。

さすがに家族に対して気がとがめるのだろう、カーツーリングには家族を連れていく。そのおかげで、わたしや家族たちも、この車の魅力を知り、会員たちと親しい付き合いをするようになった。一つの車にこだわる人たちはみな頑固だが、反面、とても純粋な優しい人たちばかりである。

この人々と親しく付き合い、会の活動を身近に見ているうちに気がついたことがたくさんある。バブルといわれた時代は、人々は何でも使い捨てた。高価な車すら、一度の車検も取らずに買い換えたほどである。短期間でモデルチェンジが行われ、10年前の車でも部品切れなどということがあった。それが全てにおいて当たり前でもあった。このような時代から、一つの車に愛着し、手入れのために努力を惜しまないその姿は、見事としか言いようがない。

車は大変便利だし、現在社会では生活の一部でもある。その恩恵は多大だ。一方で動かなくなった車は産業廃棄物となり、今、その処理の問題で社会全体が悩んでいる。

車は個人では処分できない。燃やせば有害なガスを発生するタイヤやシート、エアコンには地球温暖化の元凶のひとつフロンガスが使われてもいる。そのため各メーカーは、環境にやさしい車の開発、リサイクル率をアップさせた車などを次々に出している。一つの道具を愛し、それを長く使い続ける心は、車に限らず大切なことだと思う。

だが、この愛すべき古い車にも、手放しでは惜められない一面がある。ガソリンをがぶ飲みする車であることだ。愛着と環境のはざまで心はゆれる。愛着が生まれ、長く手放せない良さを持ちながら、環境に優しい車、そうした「文化である車」が生まれて欲しい。いや、そう願わずとも、21世紀は必ずそうなるだろうと思う。

INFORMATION

ホームページをリニューアル

長い間調整中だった当社のホームページを平成11年9月1日付けで、リニューアルオープンいたしました。新しいホームページは大きく分けて、以下の8つの柱から成り立っています。

1. トップページ (社長あいさつ等)
2. 施工作品 (建築・土木・舗装の部門別の施工作品)
3. 工法・製品 (特殊舗装・プラント・SF緑化工法等)
4. 就職・求人 (当社の就職情報、若手社員紹介、メールで資料請求もできます)
5. トピックス (最新の完成物件、進行中の物件、社内・社外ニュース)
6. 会社概要 (会社概要、沿革、完工高)



7. グループ企業 (グループ企業の紹介)
8. リンク (官公庁、各種団体、当社に關係する企業等のホームページへリンク)



会社の概要が詳しく掲載されている

各項目から当社への質問・意見をメールで受け取ることもできます。そして、なんとこのMUHもトピックスのコーナーで見ることができます(文書データのみです)。

URLは<http://www.hayano.co.jp>です。ホームページへのご意見・ご希望がありましたら、ホームページ内のQ&Aコーナーをお願いいたします。

(株) 早野組
本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL.055-235-1111

トヨタファンカーゴ 「カップル純愛篇」

今、TV・CFで人気のファンカーゴのCM。新鮮で楽しいCMです。何を言っているのか、よく分からない、と言う方。チェックしてください。分かればもっと楽しくなりますよ。

今日は彼女とファンカーゴで、海へドライブ。
まだ手も握った事ありません。
好きだからこそ触れない。
床下ガッチャン2.15平方メートルの広さがにこい。
うしろから178センチの板がまっすぐ入るんです。
僕の心も彼女にまっすぐ。
コンセントだって付いてるんです。
ときには大自然の中でカーシアター。
ふたりが見るのは、教育委員会推薦ビデオ。
真面目です。考えてます。シャイでオクテな私たち。
ああ、沈む夕陽が目にも染みあ。
ファンカーゴでカラオケしながら、「好きだあーっ！」
そんなこんなで、高さ1.2メートルのケーキに入刀。
初めての共同作業で初めて手が触れてしまいました。
恥ずかしっ！

いいよね、どこで何しても僕たちの勝手でしょ。
君なら何する？
携帯空間
FUN! CAR! GO!



トヨタビスタ山梨(株)
本社：甲府市朝日3丁目10-21 TEL.055-232-5511

INFORMATION

素敵な家ができましたね。 そんな声が、聞こえてきそうです。

新・屋根型2階建という、まったく新しいコンセプトから生まれたシンセAⅡ。その考えは、多彩な空間提案にとどまりません。個性的でいながら飽きのこないシルエット。大屋根デザインから屋根素材、外壁素材、カラーまで、住む人の感性を醸し出す豊富なバリエーションを取り揃え、住まいの表情づくりをお手伝いします。訪れた人が、まず目にするもの。それは、美しく街並みに調和するたたずまいです。

◎これが、「S&I発想の家づくり」です。

■空間倍増

プラス・アルファの居住スペースとして、最高天井高3メートルにもおよぶ新2階・愉階空間。間仕切れば使い方自由自在の柱のない1階大空間。大きな家をつくるのではなく、限られた敷地条件で「いかに空間を広く利用するか」が重要です。強靱な鉄骨フレームと500mm刻みのユニットの多彩さが実現した、まさに空間倍増の住まいです。

■愉快倍増

四季を通じて快適な空気環境をお約束する、全館健康換気システム「ピュア24」。豊富な組み合わせからチョイスできる、アイデア満載のクローゼットシステム。複数のパソコンと電話を同時に使用可能にした、インターネットをグンと身近にするホームLAN。また、安全性に配慮した、バリアフリー浴槽など…。まさに、愉快倍増の住まいです。

■寿命倍増

従来比2.5倍におよぶユニット剛性を実現しました。日本の厳しい気候に耐えうる、耐候性。火を出さない・寄せつけない構造・内外装の開発による、耐火性。さまざまな省エネに貢献する、断熱技術。太陽光発電システムに代表される、断熱気密技術。また、業界最長の「30年住まい安心特約」など…。まさに、寿命倍増の住まいです。

■自由倍増

内装・諸設備の変更も先々にわたり可能な、間取りの可変性。従来の「尺」よりも暮らしにゆとりをもたらす、メーターモジュール。まさに、自由倍増の住まいです。

トヨタホーム山梨(株)
本社：中井(摩多町)河内1043 TEL.055-275-1234 FAX.055-275-7806

輸送品質の向上を

当社は、昭和25年10月に設立し、来年10月で50周年を迎えます。20世紀最後の年であり、西暦2000年という節目の年でもあります。この50年の中で、ご愛顧戴っている荷主に十分満足されてきたのかと時々考えることがあります。

荷主一輸送一客の流れは、決して個別ではなくトータル的なものです。有償で、商品を荷主からお客さまにお届けする。そのお客さまは会社であったり、個人であったりします。当社の荷主を訪問して、輸送に対する意見を聞いた結果、すべての荷主に「満足されている」、「信頼されている」のではないことが分かりました。

商品を無事届けるという当たり前の仕事も、「壊してしまっただ」「数が違った」また「指定の期日に届かなかった」という問題が出ています。「当たり前のことを当たり前に」が簡単なようで、実は一番難しいのかもしれない。しかし満足され、信頼されまた次の仕事につなげて行く事が、次の世代へ引き継ぐための大事なプロセスです。決して難しいことではありません。荷主(客)の気持ちになって考えることです。

大変印象に残る言葉があります。「自分が給料をいただくのは何かと考えると、物を買ってくれるお客さまがいるからであり、お客さまを第一と考え、お客さまに不満を持つてはいけません。クレームがあったら言い訳をしてはいけません。責任を認めることが肝心です」。まさにその通りです。

また、平成7年から増えてきた自動車の事故を減らそうと、事故撲滅委員会を発足し活動して来ましたが、その結果、最近成果の芽が出ようとしています。今後は車と同じように、荷物に対する意識を高め指導していきます。あつてはならない事故やクレームをうやむやにするのではなく、従業員一人一人が輸送品質の向上を認識した上で、荷主に信頼されるよう努めることが、私たちの使命だと思います。

矢田道生



昭和38年2月 ボロ電の登場で親しまれ、退役した山交電車を、長野、愛知へ送る為、甲府市真川の車庫から中央線甲府駅まで運ぶ作業を深夜に行なった。

甲府通運(株)
本社：中井(摩多町)河内1043 TEL.055-275-1234 FAX.055-275-7806

他にまったく比肩できない
戦国の武人画家として
不世出の讃たる画業を成し遂げた人

武田逍遙軒信綱

(ただだしょうようけんしんこう)

上野 晴朗

うえの はるお
1923年山梨市生まれ 歴史家・作家 県立図書館郷土資料室
を経て67年から文章活動に入る。著書に「甲斐武田氏」等多数



武田逍遙軒の筆跡

この人の歴史上最初の正式な名前は、武田信廉たけだののりひさとて、武田信虎の三男である。母は大井夫人であるから、信玄のまぎれもない同母弟。信玄の年齢から類推すると、享祿2(1529)〜3年の誕生か?。幼名を孫六といい、官途は刑部少輔である。「甲陽軍鑑」には80騎の大將とみえる。

天正の初めに剃髪得度して、武田逍遙軒信綱たけだしょうようけんしんこうとなった。その面影は大変信玄に似ており、記録では兄の影武者をもつとめている。しかし、性格は兄とだいぶ違っており、兄が徳栄軒信玄を名のれば、自らは逍遙軒信綱を名のるあたり、洒落な風流人としての気概がある。同時に利かぬ気も横溢していたごとく思える。

ただ、戦国時代の歴史評価を振り返ってみると、日本人はどうも猛々しく勇猛な武将だけを価値ある者として捉え、勝った者を英雄、負けた者は人間失格者の如くその人物像を評価してしまうくらい強いように思う。

たとえば天正10年(1582)3月の武田氏滅亡のとき、武田逍遙軒信綱はいち早く信州を逃げ出し、甲斐府中まで逃げて、相川の左岸塔岩の付近で殺されたことから、諸書に頼甲斐ない卑怯な武将の代表のようにとらえられて烙印を押されている。戦国史の中では兄信玄の名声に較べて、どうもあまりバツとしていないのである。

ところがこの武将、武人画家としての業績をとらえてみると、その不世出の讃たる画業には驚くべきものが見られる。画家としての才能もすばらしく大きく、芸術家としての才能は、見廻してみると戦国の武将の中で、この人の右に出る者はいない。まさに他の追随を許さない、すごい人物であった。そこで今回はこの武将の画業に焦点を絞って紹介してみよう。

武田逍遙軒信綱がいつごろから絵画を学び、誰に師事したか明らかではない。大分若いころからと思われ、甲府長禪寺の「母大井夫人画像」は天文

22年(1553)のもので、おそらく25〜26歳の作品と思われ、それ以後永祿6年に恵運院の雪田和尚の頂相画、元龜元年の南松院の桃隠和尚の頂相画、天正2年の父信虎の肖像画、それにおそらく彼の筆ではないかと思われる、永祿9年の姉にあたる南松院(葵庵理誠尼)の肖像画などがあげられる。

記念銘の肖像画だけでもすべて重文・県文化財に指定されており、そのほか仏画・壁画・彫刻等にすぐれたものを残している。私はその昔高野山に登ったおり、成慶院で彼の描いた「十王画像十幅」と「十二天画像十二幅」を拝観して圧倒されたことがあった。十王というのは十王経に説かれている冥府で亡者を裁く王達のこと。十二天というのは仏法の方で上下・日月・四方・四維を守護する十二人の天衆のことである。十王も十二天も絹本着色、彩色は誠に豊かで、筆法は絵仏師としての才能と、経験豊かな仏法上の知識を前提としなければとても描けるものではない。その点、逍遙軒がいつ画僧のような勉強をつんだのか興味深い。

肖像画群は仏画と違って、またとくに傑出しているように思う。母の大井夫人画像は信廉時代に描いた最古の肖像画であるが、日本的にも婦人を対象にした絵画はまだ珍しく、上流社会に流行りはじめたその初期のものといえるだろう。その技法を見ると、信廉は明らかに大和絵を学んでおり、その母のつつましく合掌した比丘尼姿は、趣きある写実性にとんでいて、やさしい慈母の姿が横溢している。また上部に和歌色紙と賛が巧みに組み合わせられ、通り一遍の趣味の画家などでは

なかったこともわかる。

それに対して甲府大泉寺に残される父信虎の肖像画は、大鉢頭と炯々たる眼光の鋭さなど、その父の個性を見事に描ききって、非凡な冴えをみせている。この表現力の素晴らしさは、東京常盤山文庫に蔵される逍遙軒筆の「東帯天神像」などにもうかがえる。表現力の鋭さがまことに個性豊かで詩情があふれているのである。

「甲斐国志」などみると、千塚林の八幡宮には逍遙軒奉納の仮面があったとあり、また上野村の薬王寺には十



十二天画像二点 高野山成慶院蔵

二天画像12幅があったとあるが今明らかではない。

兄信玄が不動信仰に心を寄せていたせいも、弟も信廉時代から不動尊像が残されている。「信連」印のある賑沢町蓮華寺の「武田不動尊」も注目されるし、塩山の恵林寺に残される兄信玄を不動尊に見立てた「信玄鎧不動尊画像」と、それをさらに彫刻化した「信玄鎧不動尊彫像」など対のものとして圧巻である。画像の方は絹本着色で、真紅の鮮やかな火炎を背景

に、円亀紋の腹巻を着て岩上に立っている。彫刻の方はその画像を立体化して見事に彫り込んであるので見応えがある。甲府大泉寺蔵の「不動尊像」は、技法が円熟期に入った様相を示しており、詩情も深い、のびのびした技法の冴えがすばらしい。

私は昭和40年代、逍遙軒の絵画を求めて県内を歩きまわったが、中道町福蔵神社で壁画(屏絵)を発見した喜びは大きかった。この屏絵はもとはこの神社にあったのではなく、境川村寺尾の諏訪南宮明神社に奉納になったもので、この神社は山梨県内で唯一の諏訪南宮社を名乗る神社であり、もとは両社並列して旧地にあったが、天正ののちに今の地に移して両社殿を分けてしまった。そして一社分が今は下曾根の福蔵神社本殿の屏絵として分かれてしまったのである。「甲斐国志」を見ると、「屏ハ逍遙軒信綱寄付、松杉桜等四季ノ草花ヲ描ク、一社分ノ屏ハ今下曾根ノ社ニ用フ、元龜元年庚午九月九日信玄ノ祈願狀一章を蔵ム」と見えている。

この本殿の屏絵は開き戸になっており、左右一対によって一画面を形成していた。一種の金碧画で、金箔押しの板戸に濃彩で杉松を描き、雲形も描かれているが、すっかり荒れ果てており、今は見る影もなく惜しまれる。

武田逍遙軒の屋敷は、甲府の武田氏館跡の北西の位置に居宅をあたえられていたが、本拠地は石和の近くの桜井に館をもち、府中の東固めがその任であった。いま菩提寺逍遙院があるが、この寺に自刻の位牌が蔵されている。その死を見詰める悟りの中に、この人物の全人格と芸術の世界に生きた人間像を垣間見ることができる。

逍遙院に残される
自刻の位牌

ドキュメンタリー絵画

浮世絵がつづいたので、久しぶりに洋画を読んでみる。まずは二枚の図版をご覧ください。左が、スペインの画家ゴヤの『1808年5月3日、マドリッドにてプリンシペ・ビオ山での銃殺』(1814年制作)、右がフランスの画家マネの『皇帝マクシミリアンの処刑』(1867年制作)である。なんとなく似ているなあと感じた方、あなたは正しい目をもっている。それもそのはず、マネはゴヤが描いてからほぼ半世紀後、ゴヤの絵を「引用」して、『皇帝マクシミリアンの処刑』を描いたのである。

どちらも、史実をもとにして描いた、ある意味ではドキュメンタリー絵画である。

フランスの陰謀

ゴヤの絵は、スペインの内乱につけてこんでフランスのナポレオン率いる軍隊がスペインに攻め込み、反抗するスペイン人を次々に銃殺した。いわゆるナポレオン戦争の惨劇を描いた。

マネの絵はどうだろう。ナポレオンはナポレオンだが、こちらは三世が主人公。ナポレオン三世は、オーストリア大公マクシミリアンを軍事力によってメキシコ皇帝にしようとした。ところが土壇場でマクシミリアンを見捨てたため、彼はメキシコ共和国軍にとらえられ銃殺されてしまう。この光景はその銃殺シーンである。

ナポレオン三世のこの行動は、フランス人サイドから国の恥であると非難ごうごうとなったのであるが、マネはその非難ごうごうの原因となったシーンを、わざと再現して描いてみせたのである。

ボク的美術品観察日記

半世紀を隔てた「競演」

ゴヤとマネのドキュメンタリー絵画

山本育夫

ミニシアターやオンラインDOME(ドーム)など、美術品観察AW(エイ・ダブリン)／美術批評・展覧会批評はLINE(ライン)でフォローしてください。週刊朝日に掲載された批評連載中

14

戦争の質も類似している。いずれもフランスがスペインやメキシコの内政に干渉して、機会あらば植民地化しようという魂胆にあふれた戦争だった。

細部を見比べてみる

そこで、ゴヤとマネの絵の各部分をクローズアップして、二つの絵の表現の仕方を比較して見てみよう。

ゴヤの絵の、銃殺されるスペイン人の顔、その表情と、マネの、銃殺されるマクシミリアン皇帝たちの顔、を見比べてみて欲しい。

実はマネの場合、新聞報道の記事や写真を見てこの絵を描いている。だから、マクシミリアンや、二人の部下の將軍の顔は実在する人物に似ているのだという。死ぬ顔も、多分実際にはこんなふう死んでいくんだろうな、という淡々とした、日常そのままといったリアリズムが感じられる。

それに対して、ゴヤのそれは、目を覆いたくなるような恐怖が見るものに伝わってくるように描かれている。かなり誇張され、つくられたイメージであることがわかる。特に中央の白いシャツの男の、大袈裟な身振り。実際、抵抗者たちの中には、このように勇敢に銃殺隊に向かって反抗した人たちもいたかもしれないが、マネのそれとは何と異なる表現方法であろうか。

マネのそれは、現代風ハードボイルド・タッチ、乾いた感覚が充満している。僕らの世代には、いささかクールすぎるよねえ、という感じがしてしまう。しかし、ゴヤはちょっとやり過ぎじゃないか、という思いもする。

背面銃殺隊

背面を見せている銃殺隊を比べて

みよう。

マネの背面銃殺隊は、みんな同じ人間じゃないかと思えるほど典型的で、これまた淡々と仕事を遂行しているという感じ。一番右側のひげの隊員は、撃ちそこなった場合とどめを刺すためにいるのだが、もう一度弾がチャンと詰まっているかどうか点検しているといった風情のすまし顔。今起こっている銃殺には何の関心も示していない。

これに対して、ゴヤの背面銃殺隊はどうだ。腰を落とし、片目を閉じてよく照準を合わせ、今まさに引き金を引こうとしている瞬間が、ありありと伝わってくるのではない。血だらけの死体には銃弾のあとさえ描かれているし、顔を覆い、口を覆い、手を握り締め、コブ

シを突き上げるゲリラたちの表情力。まさに歴史のワン・シーンのただ中に僕が立ち会っているような気分させてくれる。ドラマティックだ。

毒のある芸術もいいな

クールなマネ、ホットなゴヤ。半世紀を隔てた二人の画家が表したドキュメンタリーの手法は、それぞれのもち味を十二分に生かした作品となっている。

さてどちらが好きか、皆さんも考えてみて欲しい。

追伸。マネの絵の中の銃殺隊のゲートル、これはスペイン人のものではなくフランス人のスタイルだそう。つまり、マネはひそかに、この事件はナポ

レオン三世の責任であるということ、この絵で暗示していたのではないかという説がある。マクシミリアンを殺したのは、メキシコ人ではあるけれど、本当の犯人はナポレオンなのだ、というふうに。

絵画がもつ、この種のドキュメンタリー性やジャーナリスティックな性質は、現在では忘れ去られた感があるが、一考してみる価値はありそう。美しいものばかり描いては、美しさは描けない。人畜無害の芸術など、あっという間に消費されてしまい歴史の時間には絶えられない。芸術家なら、ひそかにでもいいから、毒のある表現を描いておいて、隠しもっていて欲しいという気がすることもあるのです。



ゴヤ 「1808年5月3日、マドリッドにてプリンシペ・ビオ山での銃殺」



マネ 「皇帝マクシミリアンの処刑」



■収穫のよろい

春の田起こしから始まって、苗代づくり、田植え、田の草取りと忙しい。そして過酷な労働が一段落すると、つぎは大自然のもたらす風雨から稲田の災害を守るための、必死の祈りを続け、やつと実りの秋を迎えようと不安と期待が入り混じった心で、収穫という最後の労働に汗水を流す時がくる。

例えはその成果が思わしくない結果に終わっても、長かった日々注いだ労力と祈りは、農民たちの生きた証として、喜びとなつて結果の善し悪しはともかく、実りへの感謝を忘れず、自らの努力を讃えて素材であつても、その感謝と自負を示す収穫感謝の行事を行った。

この行事はところによって形はまちまちであるが、北巨摩郡の小淵沢町あたりでは、稲刈りが終わったその日の夕方、家々で「さんま飯」と呼ぶ行事食を炊く習わしがあった。

■「さんま飯」の季節

稲刈りの時期はそれぞれの家で、多少の違いはあるが、この時期になるとムラの雑貨店の店先に「さんま入荷しま



ふるさとと心と味(7)

稲の収穫祝いとさんま飯

民俗学研究者

志摩 阿木夫

した」と書いた貼紙が出る。今ではそれも遠い日の風景となつてしまつたが、この貼紙が出されると地域の主婦たちは、先を競って求めに行き雑貨店は賑わいを見せる。

現在ではスーパーへ行けばいつでもサンマを求められるのだが、第二次世界大戦が始まる以前までの山梨では、海を持たないためサンマが食料にお目見えするのは、この時期に限られ、しかも値段も高かつたので、平均6人か7人はいった家族に、一人一本のサンマを供するのは無理であつたから、この家でも2本から3本程度求めて、これを家族全員で味わうように工夫されたのが「さんま飯」である。

行事食であるから調理の素材は当然白米ぞつて、ていねいに研いだ米を釜に移し、その上に2尾か3尾のサンマを並べて、かまどに据えて炊き上げる。

「初めチヨロチヨロ中パッパ」といった、手馴れた炊き方で炊き上げられた飯が出る。来上すると、釜の蓋を取って素早くサンマの頭をつかまえて、一方の手で胴体の部分を力いっぱい握くとサンマの身がバラバラと飯の上に落ちて、頭と骨と尻尾が外に出される。この作業が終わつたあと、味付けに醤油を振りかけて、飯とサ

ンマの身を混ぜ合わせると出来上がりということになる。

陽が暮れて野良の作業を終えた人たちが、家に戻つて汗を洗い流して家着に着替え、夕食の膳につくころ「さんま飯」はほど良く味を整えていて、まず「先祖さまや家の神さまに供えて無事収穫の報告をして、家族揃つてこの行事食に箸をつける。お祝いの尾頭付きといえないまでも、飯と混ぜ合わせる前まではりつばな尾頭付きであつたから、家族たちの心も和み、収穫の喜びがいよいよ高まるのである。

もうこうした情景はほとんど追憶の彼方に去つてしまつたが、それでも過ぎ去つた日を偲びながら、この時季になると遠い日に心を寄せるお年寄りは数だけの手で、器用にこの行事食を炊き上げていく。これが誰のためにというのではなく、遠い祖先から受け継いだ「食の文化」を、少しでも後世に伝えたいという願いと、自らが習い覚えた行事食に、ある誇りを感じて、心の思いをぐまに炊き上げているのである。

農作業の仕組みがどんなに変わつても、こうした行事への心と行事食への思いは忘れてはならない。日本の大切な心でもあるのだから、いつまでも残していきたいと思う。

芦安の集落にのこる

峠越えの恋人伝説

地名には

草花のにおい

情感の響きがある

秋の七草を求めて、芦安村に出かけてみた。夜叉神峠の村である。勅使川に沿つた村である。地図を手に、季節の色彩も濃い道を歩いた。芦安村の地名は、土地の成り立ちを伝えていて興味深い。六つの集落があるが、最初の集落は「新倉」という。「クラ」とは崖や岩の意味だそうで、

バ、アワ、マメなどを栽培する耕作法だ。連作がきかないので何年かに一度、土地を替えていくのだが、その休ませしておく耕地を「ゾウリ」というのだそうである。

郷愁の漂う集落で、クズの一面の広がりに出た。もとより秋の七草のひとつである。赤紫の花が咲いている。芦安村のもつとも奥の集落を「香沢」という。「クズタ」と呼んでいたともいう。秋の七草、クズにちなんだ地名だと聞くにおよんで、あらためて、しみじみと、目の前で咲くクズの花に見とれた。お年寄りから「クズタ」の伝説を聞いた。奈良時代のことだという。隣の奈良田の集落から峠を越え、逃れてきた若い男女がいたという。奈良田には「いいなすけ」の因習があり、この掟を破つても添いたいと願った恋人同士だった。そして誰も住むことのなかったクズばかりの地に、ひっそりと暮らしはじめたという。土地の名前には、草花の匂いがし、そして、伝説がある。(石)

都市化によって町の名前が殺風景になってしまった。山梨においても、甲府はすっかり他人の町のように、歴史ある町名が失われてしまった。魚町、三日町、二十人町、代官町、桶屋町……

かつての町名を数えていけば、いずれも人と暮らしの表情が蘇ってくる。それが丸の内や、中央に変わってしまった。中央何丁目といわれても、いまだに何処なのかわからないう。昔の町名を聞き返して確かめる、というありさまである。合理的にしたつもりが、迷ってしまうばかりである。記号や番号になってしまったまちに、季節の移ろいなどがあろうはずもない。

あたりの地形を確かめさせられる。「古屋敷」はその名の通り早くから民家が並んでところで、なるほど段丘の上の平らなところにある。

珍しいのは「小曾利」。「大曾利」。「ゾウリ」というのは焼畑農業のなごりだそうである。焼畑とは、春に雑木や雑草を焼き、肥料にし、ソ

こんなところに山梨
思いがけない場面で
ふるさと再発見

石橋湛山の生涯

「政治的良心に従います」

江宮隆之 著



21世紀を前に選出を極める政界にあって、真の政治家とは何かを問う。石橋湛山は山梨で幼年期を過ごし、やがて内閣総理大臣となった政治家である。したがって「石橋湛山の生涯」は山梨と身近な思いを寄せる人々にも多い。石橋湛山は昭和22年に衆議院に初当選してより、10年を終り、昭和31年に内閣総理大臣に就任。さらに、病に冒され、わずか2ヶ月で政壇を譲らなければならなかった、という稀有な経歴をもつ。そこに、政治信条の高さを評価する声と、もしも政権が続いていたならば、という期待と悔いの声とが述べられる。

石橋湛山は、自由主義と個人主義を尊ぶことを基本とした。国家のために国民があるのではなく、国民のために国家があることを主張した。そして政治家にも、「如何なる場合に於ても最高の支配権は全人民に在る。代議政治はその発言を便宜にする方法で、現在の処之に代わるべき手段はない」とも記している。石橋湛山の声と表情が伝わってくる書である。

忘れかけていた「志」「良心」といった言葉の響きも新たな。もとより最近の政治報道と照らし合わせて考えるうえでも有効である。(川)

河出書房新社 ¥1,600 (税別)



観音平から見上げる編笠山(左)と権現岳



旧コースの脇にある奥村のお地蔵さん



三味線の弦のように細い流れを落とす三味線滝



八ヶ岳西端にある編笠山への登山口となる観音平のほぼ東、水平直線距離では、たった1・3kmの高川上流にある小さな滝である。高川自体が、三ツ頭の南面を水源とする小さな流れであり、流れ下ってJR中央線のすぐ上で古拙川を併せ、さらに下って女取川と合流して大深沢川となり、やがて釜無川に注いでいるものだ。観音平は、シーズンには広い駐車場も満車になってしまうほど賑わう。むろん編笠山への登山者が大部分だ。広場の南東の隅に指導標があつてカラマツ林の中を下る。10分ほどで淵沢になり、左岸の林道脇の指導標に「三味線滝近道」の標識がある。帰りはここに

林道を少し下り、左折してまたカラマツ林の中を歩く。岩の上に小さなお地蔵さんが立っている。周囲の林はさまざまに変化して楽しい。三ツ頭経由権現岳へ登る小泉口登山道とクロスする所に、八ヶ岳神社がある。神社といっても小さな石の祠が、積み上げた石の上にぽつんとあるだけ。しかし、のんびりしたくなるいい場所だ。クマザサに覆われた地表にシラカバの白い木肌がよく映える場所に出ると、新規に開発された林道が何本もある。西の端の林道を10分ほど登れば休憩舎がある。その前の新しい遊歩道を右手へ高川に降りると、やや奥まって三味線滝が見える。5mぐらいの高さで水量も多くないが、いい感じだ。僅かな水の高川は、この下では伏流になるのだろう。

休憩舎の前からやや登っている新しい遊歩道は、少々味気ないが時間的には早い。

参考タイム

小淵沢IC
↓ 車15分
観音平
↑ 往復 2時間弱
三味線滝

甲府通運前史を訪ねる(14)

〈甲府通運のページ〉

早

野組を創設した金蔵のあとを継いで二代目社長となつた欽介について昭和二十七年(一九六二)八月十二日の山梨時事新聞(四十四年版)「日曜訪問」の記事から仕事をはなれた先代社長の人柄をたどつてみよう。

早野さんの略歴 大正元年十一月二十日甲府に生まれる。病弱のため学校は甲府中学(現在甲府一高)でやめ、静養のかたわら釣り、小鳥などに趣味をもつ。父親の欽三(金蔵が正しい)氏が七十三歳で死去、同時に土建業をやめ運送業を営むかたわら酒折町郵便局長をつとめる。昭和二十三年郵便局長を辞し二十八年、亡父の残した土建業を早野組として復活した。(以下略)

早野組といえば県内で有数の土建屋さんである。人前へ華やかにデビューするのが嫌いな人が、天衣無縫の人柄ゆえに話題をまくこともある。甲府市東光寺の夢見山を背に松の緑に囲まれた静かなたたずまいの中に早野さんの家がある。夢見山それ自体が早野さんの庭園につながっているが、その風景が「過去はすべて忘れる。思い出

多忙の中に趣味を見い出し楽しんだ 二代目社長の日常生活

林 陽一郎

はやし よういちろう
山梨県教育委員会・県史編集文化財担当



自宅の庭先での欽介社長
当時の新聞記事から

けでよくよしても仕方ない」という信条、「雨すこし新盆の灯を吊すより」という早野さんの句にピッタリあてはまるような気がする。問 早野さんといえば非常に多趣味の人で俳句もおやりになつて

いるそうですね。俳句は中学生のころ飯田蛇笏先生に教わりました。榎本虎山は先輩、稲垣晩堂は後輩です。問 最近も句作していますか。さっぱりです。俳句を作るとい

うのは環境ではなく努力ですね。作っていないとダメです。問 釣りのほうもなかなかだそうですが、海と川と湖での釣りのダイゴ味はどうですか。海づりの衰快さというようなのは。そりゃ、みんな同じですよ。魚をひっかけた瞬間の気持ち、釣りの行動はみんな同じだ。金魚つり

でもひっかけたときの気持ちは同じでしょう。問 海づりを一年半もぶつづけてやったという話を聞きました

が、えらく凝ったものですね。いやそれは実は、体が悪くて静

岡で静養していたときでね。はじめどうしても魚がひっかからないので、よし、それならというわけで毎日毎日こつちも意地づくでがんばつたのが誤り伝えられたのでしよう。でも釣りはいいもんですね。『鮎釣るや一竿に潮を感じつ』の心境ですよ。

問 目白やウグイスもたくさんお飼いになつていらっしゃるんですね。

とくに私だけが目白やウグイスを飼っているというのではないですよ。趣味はみんなだれでも同じで、山から目白を捕ってくるのもみんながすることです。一年で山に放すというのが百羽に一羽ぐらいしかいい目白はいませんね……。

以下郵便局長の話、政治家についての希望が続いて述べられているが、まさに忙中閑有というか多忙の中に時間を作り出し、心身ともリラックスする二代目社長の姿を知ることができる。



仲間とツーリングでの記念撮影

ツーリングクラブは
店主とお客さんの絆を越えた
人間どうしのおつき合い



二輪免許を持っていないくても、バイク屋さんの側を通るとつい目がいってしまふ。あるいは、バイクに股がかり、颯爽と駆けてゆくライダーを見かけると、つい目で追ってしまふ。…そんな経験をしたことはないだろうか。車ももちろんそうだが、バイクという乗り物は、とりわけ人を引きつける何かがある。

簡単には語り尽くせないバイクの魅力を「やっぱり、夢でしょうかね」と笑顔で答えてくれたのは、小沢モーター販売の店長、小沢淳一さん（33歳）。祖父の代に始まったお店を二輪車販売に切り替えて受け継ぐ3代目。昨年の5月には「YSP富士吉田」の看板を掲げてリニューアルオープンした。取扱もヤマハをメインに、国産や外車、逆輸入車など幅広い。認定工場も取得しているので、アフターサービスの面でも安心だ。

「“ひぐらしクラブ”というツーリングクラブがありまして、ウチはそれを中心に回っているんですよ」と小沢さん。女性5人を含む40名で構成されるクラブは、平均年齢約30歳。「日曜日は月に1回、

1泊2日は年に4回と定期的に企画があり、主に関東近辺へ行っています」。トヨタビスタで購入したセブターはその際の荷物運搬車として、ハリアーは弟の昌路さんが乗って、それぞれ大活躍。営業の渡邊さんとは「やはりバイクを通して知り合い、もうかれこれ15年になる」そう。「淳ちゃん」「保さん」と互いに名前呼び合うところなど、端から見ても心なふうなのだろう。「冬は冬で、誘い合ってボードをしに行くので、一年中お客さんと顔を合わせないことはないんですよ」。

店長の気さくな人柄に、お客さんたちも気軽に立ち寄り、自然に信頼関係が生まれてゆく小沢モーター販売。英会話拔群で工場長の弟さん、バイク好きな奥さんも含め、これからもますますエネルギーギッシュで夢にあふれた素敵な仲間の輪を広げていってほしい。

[DATA]

〒403-0004 富士吉田市下吉田5292-7
TEL 0555-24-1688



齢を重ねた夫婦ならではの
落ちつきと
ゆとりに満ちた家

塩山の「増田屋」と言えば、老舗で知られてきた呉服屋さん。それが駅前開発の件もあって、これまで使用してきた店舗と住居を駐車場に変えることになった。

その代わりに庭の一角に建てられたのが、トヨタホーム「メレーゼ」だ。

玄関から和室に通されると、まず畳のいい香りが漂ってきた。障子の向こうにはマツやツツジ、大きな庭石が配された庭が眺められる。今年3月に着工、6月末に完成したばかりの増田家は全部で53坪。1階には和室にリビング&ダイニング、バス、トイレ、納戸があり、2階もほぼ同じような間取りになっている。「二世帯住宅なんです。将来的には息子夫婦が2階を使えるようにと思っていますね」とご主人の増田邦夫さん。「玄関も悩みましたが、利便性や効率を考えると結局北側にひとつということになりました」。まだ入居して間もないが「やはり気密性や防音性が高いせいか、外からの音が聞こえなくなった」そう。うだ。「収納もできたり、ボタンひとつで調節できたり、以前と比べたら、急に文化的生活になったようです」と奥様

もにこやかに話す。旧家のお風呂は何と6畳間の石造り、増築を重ねたので広くても不便な点があったそう。「コンパクトにまとまり、とても使いやすい居心地のいい家になりました」とご主人も嬉しそう。

「トヨタホームということは始めから決めていたんですが、兵藤さんをお願いして本当に良かったです。職人さんも熱心に素早く動いてくれましたね」と言う。

じつは取材の後にとっても美しいひとこまを見せていただいた。ご主人が奥様のブラウスの襟をそっと直してあげたのだ。逆のパターンはよくあることだが、こちらはなかなか少ないのではなからうか。長年寄り添ってきた夫婦ならではの何ともさりげない行動に、こちらまでほんのり胸を熱くしてしまった。全体的に落ちついた色合いの室内。聞こえてくる蝉の声もしっくりと耳に馴染む。それはこの家が、落ちついた、柔らかな人の住む空間だからという気がする。増田さんご夫妻が、いっそう心豊かに健やかに暮らしていられることを願いつつ。

この夏、柄にもなくロンドンの街を歩き回った。起点にしたのは主要道路が交差するピカデリーサーカスで、雑踏のロンドンを象徴する一角である。宿舎にしたサウスケンジントン^{サウス}は、お洒落向きに地下鉄のピカデリー線が通っている。それでともかくもピカデリーの広場に出て、方角を定めては歩き回っただけの話ではある。

よくあるようにスニーカーに履き替える必要が生じて、急遽靴を探して歩いたので、はからずもいわゆる繁華街の裏街をさまようことにもなった。

ロンドンの街並みは一步裏に入ると沈潜してズシリとくる黒ずんだ色一色である。長年の汚れでつやを失った灰色の、同じ高さの石造りの建物が連綿と続く。その重厚さと単調さに恐れ入る。建物の出入り口の上部やそれぞれの窓は人の顔や紋章などの彫刻で飾られている。いちいち見上げていたがそのうちあれは無変化の中の変化、ちょっと個別を主張する必要欠くべからざる意匠であると見た。



歴史では二度の大火を経験している。1666年の歴史的な大火でロンドンの旧城壁内の五分の四が消失、その復興に際してレンガと石以外の建築材料の使用が禁止された。そして街並みは面目を一新することになったとい

う。さらに下って第二次世界大戦での被災、大火。その試練を乗り越えて宮々と、じつに旧に復する街造りが続けられた。今見る石とレンガの風景も

会いたい人から 会いたい人へ
知りたいことから 知りたいことへ
リレーでつなぐエッセイ

ビルの化粧直し



内藤 利信

ないとう としのぶ
エッセイスト

そうした人為の結果である。地質の関係から建物の頭がそろっているのも特徴。それで抜きん出た尖塔ばかりがむやみに目につくことになった。

17世紀の銅版画に描かれたロンドン橋周辺と今のそれとはさしたる違いはない。つまり風景としては変化しない街、意図的にさせないできた街である。

表通りには数カ所天幕で覆われた外壁掃除中の建物が見える。市の予算で建物の石や彫刻の汚れ落としが行われているという。それは大変結構なことだがあまりに散発的だからか、きれいな街造りにしぶしぶ取り組んでいるという感じがする。もちろんきれいな街とは造り立ての真新しかつ

た石壁への郷愁、昔の壁面に戻すことである。

その下をじつに雑多な人種が行き交う。黒人やインド人がむやみに多い。いや、イギリス自体が近年、世界中の金持ちと職にありつく人々の住みつく国になり、すでに多民族国家、人種という概念も失せているというのだ。

雑多な人種特有のにおいがあり、捨てられたゴミが一面石畳にこびりつき、生活廃水が筋を引いている。ちょっとやそつでは原形回復は難しそうなのだ。ああ、この街並みはすでに行き交う人々のためのものになっているのだと思わせる。であるからかもしれない。その石壁の汚れ落としがなにか現実から浮遊した風景に思われて仕方がないのだ。



以前、中国の成都で生活をしていたころ、同じような光景によくでくわしたのを思い出した。やはり薄汚れたビルの塗り替えが所々で行われていた。その下は農村から盲流する汚しほうだいの人々の果てのない群れ。

都市は常に二面性を顕在化する。攻め上る新しい住人が醸し出す匂いと性行、押し戻そうとする旧美観勢力、思いがけない図式に思いついたり苦笑したのである。都市の美観の維持はいかに難しい。

仕事をしているからこそ楽しい

制服姿で現れたその人は、ショート髪型がよく似合う、どこかおっとりした感じの女性だった。

昨年春、山梨学院大学を卒業し、トヨタホーム山梨に入社、建築部の紅一点として働く澤口文子さん。じつは彼女、岩手県出身だ。「大学時代にしていたグラウンドホッケーを続けたかったのと、こちらでの生活が気に入って」と山梨に残ったいきさつを笑顔で話す。山梨学院大と言えば、全国的には駅伝で有名だが、そればかりではない。「私が入学した年にちょうどホッケー部ができたんです」と澤口さん。学院大女子ホッケー部は、1994年に関東リーグ2部から1部にスピード昇格、リーグでは毎年優勝を飾り、全日本学生選手権にも出場してきた。

「私たちは初代ということで、とてもはききっていたんですね」それから4年の月日が経ち、大学卒業&就職の時期を迎えたが、やはり打ち込んできたホッケーをすんなり手放す気持ちにはなれなかったそうだ。現在



は、社会人チーム「白根クラブ」のDFとして活躍。「火曜木曜の夜と土日は、すべて練習に当てている」と言う。せっかくのお休みに練習ではキツくない?と聞くと「いえ、仕事をしているからだと思うんですけど、かえって楽しいんです」澤口さんは、そう言って明るくほほえんだ。

スピード感と迫力がたまらない

「白根クラブ」は、県内で唯一の社会人チーム。18人いるメンバーの中には、学生時代に一緒だった4人が含まれている。「お互いをよく知っているので、分かりあえるところも多いですし、仕事やプライベートについても気楽に話せていいですね」と澤口さん。

普段、会社では電話応対を始め、書類を作成したり、請求書の処理を行ったり、業者さんから送られてくる荷物の分配作業などを受け持っているそうだ。

「マイペースなO型なので、細かい事務には向いてない気がする」と自分をみつめる澤口さんは、ゆっくりした口調でひとつひとつついでに質問に答えてくれた。その物静かな印象もあって、なかなかスティックを持ってグラウンドを駆けめぐる姿が想像できない。どこにそんなたくましさを秘めているのだろうか。ただ、3人きょうだいの長女と聞くと、ああ、やはりお姉さんらしくしっかりしているなども感じられた。

「グラウンドホッケーの魅力は、スピード感と迫力。ルールはちょっと難しいけど、見ているよりやっている方がダンゼン面白いですよ」と澤口さん。10月から始まる熊本国体に出場するため、白根中央公園での練習にもいちだんと熱がこもっているそうだ。

国体でのご健闘とこれからの素晴らしい出逢いを心より祈っています。

[取材: 原田陽子]



トヨタホーム山梨株式会社 建築部

地元を離れ 山梨で活躍し続ける 女子ホッケー選手

澤口 文子 さん(竜王町) 24歳

より健康的で楽しい生活をサポートしてくれるお店

イシイ補聴器

医療用具にもファッション性が重視される時代だ。ここ最近、急速に普及している超小型補聴器（CIC）は、耳の中にすっぽりと収まり、外見では付いていることが全くわからない。「これなら人目を気にすることなく、気軽に装着していただけます」と石井店長。



ひと昔前のイヤホンタイプは手元で音量を調節しなければならなかったが、今はそれらの動作を内蔵コンピュータが行ってくれるという。しかも集音効率が高く聴きやすいというから、これはもう願ったりかなったりだ。価格は16万から30数万まで、「聴力低下というのは、聴覚細胞が音を脳へ送る活動を休んでしまった状態。補聴器を使うことで健康管理しながら脳の活性化を図ってほしい」と店長。欠点と思うと日本人はすぐに隠しがちだが、アメリカ人はオープンにしてしまうのが多いとか。その

う言えば、かのレーガン大統領もCIC愛用者。あなたも思い立つたら、スマートにおしゃれに聴ける。喜びを実感してみたいかが。店舗は甲府北口にもある。



営業時間 9:00~19:00 (平日)
10:00~18:00 (日・祭日)
定休日 水・木曜日
所在地 中巨摩郡昭和町河東中島291
TEL 055-275-6138



青楓亭

日本の伝統文化を心ゆくまで味わえるお店



今年2月にOPENした「青楓亭」は、茶室を備えたちょっとした食事処。店内からは楓につくばいのある小さな庭園が眺められ、和風ならではの清々しさが漂う。献立は、定食からおでん、酢の物、サラダといった単品まで。中でも、ワインと黒蜜を

隠し味にしたという種類のつゆが美味しい。昼定食は、たぬきそばorうどんに日替わり御飯、小鉢、漬物、コーヒード1000円。デザート付きでも1250円とボリュームの割にお値打ち価格だ。楓の葉を型どった食材、色や質感の豊かな器、耳に優しいBGM、さりげない装飾品と、いたるところにオーナメントのセンスがうかがえる。また、杉の網代天井で創られた茶室も思わぬ見とれてしまうほど。貸茶室は、お茶会のみならず、お花や書など



営業時間 11:30~14:30
定休日 土・日曜日・祝日
所在地 甲府市朝日3-3-12
TEL 055-252-8780



最近のBAG事情

貴女のバッグはどんなBAG?

最近、バッグが変わってきた。特に女性の持つバッグのことだ。ひと昔前まではもっぱらブランド志向だったのが、どうやらここへきてブランド名よりもファッション性を重視する傾向に変わってきたらしい。値の張るバッグをひとつ買ひ、取扱いや使いまわしに頭を悩ませるより、お手頃価格のお気に入りのバッグをいくつも持つてゐる方が、おしゃれのバリエーションがグンと広がるというわけらしい。

バッグ業界の商品戦略が功を奏したのか、はたまた女性の頭が柔軟になったのか、どちらにしてもそれ自体、ひとつの変化であることは確か。おでかけには必ずついている、女性の分身とも言えるバッグ。今回はそのバッグについてちょっと探ってみよう。

カジュアル化は文明進化の証!

まず、「素材」。ニットや帆布、コットンなどがあるれば、高級っぽく見える人工皮革、ナチュラールの漂う織物、中味が見えるビニールやナイロンまでい



ろいろだ。この素材感に光沢やシワ、手触り、防水といった表面加工が附加した点も見逃せない。次に「デザイン」。つまり、色と形。これも、購買層や季節に合わせて様々なものが出回っている。バスケットやショルダー、トートがあれば、幼稚園の園児がするように体に斜めがけするポディバッグや吊りバンドでリュックのように背負うバラシユートタイプもある。色で言えば、今夏はやはり白や薄いベージュが多く売れたとか。なるほど、ファッションとリンクしているんだとわかる。ちなみにこの秋は「フオークロア」「ホヘミアン」「ヒッピー」が3大流行

キーワード。だから当然、バッグもビーズを使った装飾や手の込んだ刺繍、フリンジ（ひらひらした布や糸の繰取り）などが施され、生地もヌバックやサテンなどそれらしい雰囲気のもの店頭に並び始めている。全体的にはカチツとしたものよりカジュアル系のものが人気。そういえば、「文明が進化するとあらゆるものがカジュアル化する」と誰かが言っていた。

バッグだけ一途品。でもほんたに、やっぱり一生モノ、ホンモノにはそれなりの魅力を感じちゃうよね。

バッグはもうひとつの女の顔

注目したいのは、バッグの持ち方。渋谷の「ギャル」たちはリュックをわざと重心を下にして背負うし、新宿のキャリア層は短めの手紐でもしっかり肩かけする。そうかと思うと銀座のお姉さんたちは、たとえ手紐が長くても手持ちや肘掛けにしている人が多い。確かにその方が優雅エレガントに見える。意識的かどうかは別として、バッグの持ち方ひとつにたいていいろいろあるんだよね。持ち方で思い出すのは、何となくでもグレース・ケリー。子どもを背した彼女が報道陣に取り囲まれ、カメラを向けられた瞬間、持っていたバッグでとっさにお腹を隠して以来「ケリー・バッグ」と呼ばれるようになったのは、あまりにも有名な話。オードリー・ヘプバーンはロケの移動中でも「これは、私の（荷物）だから自分で運ぶわ」と大きなバッグを平気で抱えて歩いたというエピソードも聞いた。大女優ともなれば、お付きの人に持たせるのが当然のようだが、きっと彼女の常識は他のスターたちと違っていたのだろう。媚びを売らない彼女らしく、何ともリリしい逸話だ。

こうしてみると、あらためてバッグは女性には切り離せないものなんだというところを実感せざるを得ない。バッグを観れば、金銭感覚から趣味嗜好、性格や年齢、職業など、その人がどんな女性かがある程度わかる気もする。顔やカラダにみとれるのでもいいけれど、これからは、もうひとつの「女性の顔」バッグに注目して人間ウォッチングしてみるのが面白いからね。



某月某日

臓器提供者意思表示カードをご存知ですか？

×月×日

社団法人臓器移植ネットワーク・移植コーディネーターをしていらっしゃる方の講演を聞いた。移植にあたっての法律上の手続き、倫理上の問題、日本および地域的な移植実績など、熱意のこもった良い講演で、早速ドナー・カードに記入しようと思う。

臓器移植の問題は、数年前から盛んに議論されているが、臓器移植ネットワークの組織の説明を受けているときに、「なぜこのような組織が必要で、倫理の問題についてやかましく議論しなくてはならないのだろう」という疑問がふと湧いてきた。一般的な答えは、簡単に、「人間の生命に直接かわる臓器を扱う(移植する)には、高い倫理規範が必要で、それなしには闇の市場が発生してしまうから…」等となるだろうが、職業が社会現象に対してより純粋な形での本質を考える癖がついているので、もう少し深く考えてしまう。

第一に、提供したいという「動機」についての問題である。移植手術の成功によって元気になった子供の写真を見たならば、ほとんどの人が「この子供たちのためならば…」と提供に積極的になるだろう。古い言葉で自分の利益にならない利他的な行動をとることを「**憐愍の情**」と言い、人間およ

びその社会が他の動物に対して優位を保てる原因であるとも言われる。(自然界の他の動物による「利他的に見える」行動は、自分の遺伝子を守ろうという本能から発生するもので、純粋に利他的ではないと言われている。)

次に、「**憐愍の情**」と極端をなす「市場(しじょう)」について考えてみる。「市場」は、適者生存・弱肉強食の世界で、合理的かつ利己的な世界であり、人間以外の動物の自然界とほとんど変わらないが、問題は臓器といえども「物」なので、このような「市場」の世界から逃れ難いという点にある。臓器の場合「誰かが・何らかの形で」コントロールしなければ、倫理および感情的に受け入れ難い醜い「闇の市場」が形成されてしまう。(戦争直後の闇市の時代を経験した人には、このコントロールの難しさが分かると思う。現代の先進国でもGDPの5%~20%が、闇の市場で取引されているという。)

直感的には、「利他的な憐愍の情」と「情け無用の市場」2つのバランスがとれて始めて人間社会が機能する。始まったばかりの移植システムが50年後・100年後にどの様に変化するのかを考えながら、黄色い提供者意思表示カードに記入している。やはり自分の感情に正直にならなくては…。

「海外留学」って学歴の一種？

×月×日

最近話題になっている某女性の学歴詐称の問題は、この原稿が印刷される時期にはすでに解決していると思うが、これの騒動を聞いていて考えたことがある。

一つは、学歴の項目に××大学留学と書くことのおかしさである。正式な履歴書で学歴を記入する場合、日本の大学ならば、何年〇〇大学入学、何年卒業と書くが、海外の場合どうも××大学留学となっていることがある。これはどう見てもおかしく、たとえばアメリカの場合、社会人教育を行う2部(Extensionと言う、主に夜間)や外国人のための英語研修のみを行うESL(English as Second Language)等、同じ大学でも在籍する場所は沢山あり、「留学」と書いただけでは何をやったのか分からない。

では何で、この「××大学留学」という言葉が使われるかを考えると思い当たる節がある。日本では、「履歴書に穴があくことは恥だ」と言われてい

るのがその原因ではないかと思うのである。例えば、大学時代に同級生が大学院に落ちて浪人する時に、卒業要件が揃っているのに意図的に卒業しないということがあった。(ちなみに彼は、現在東大の助教授をしている。)
「何で？」と聞くと、「履歴書に穴があいたら困るだろ」との答えであった。ただ、良く考えると何故「穴をあけないため」だけに1年間無駄な授業料を払うのか、釈然としないものがあつた。

「数年間履歴書に穴があいても別段問題無いのでは？」と私は考えるが、このような日本社会では、海外で経験を積んできた時期は「留学」と言う言葉で穴埋めする傾向があるようだ。長い人生で「履歴に穴があく」時期が必要と思われることもある。これを認めない日本の「恥」を基本とする文化は、もう時代遅れではないかと思う。そういえば、英語で「ブー太郎」(無職の若者)にあたる単語を私は知らない。

[文：杉村 聡]